

小学校・第5学年・図画工作科・ながさきARTTRIPーわたしだけの地図ー①

B鑑賞(1)ア、[共通事項](1)ア、イ

育成を目指す資質・能力

長崎県提供

- (1) 自分の感覚や行為を通して、身近な長崎をテーマに描かれた絵における形や色などの造形的な特徴を理解する。
- (2) 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら我が国や諸外国の親しみのある美術作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。
- (3) 主体的に郷土長崎にゆかりのある作品を鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

ICT活用のポイント

- ・美術館の学芸員と対話しながら所蔵作品を鑑賞できるように、教室と美術館とをオンライン会議システムで接続
- ・作品の細部まで鑑賞できるようICT端末の拡大機能を活用

事例の概要

作品鑑賞1
学芸員の解説
めあての設定

作品鑑賞2
「作品マップ」づくり

開き合い、発表

まとめ、振り返り

長崎美術 往来！ー長崎県美術館コレクションからー
2020年10月3日～2021年1月3日

鎖国の時代から海外交流の拠点であった長崎は、明治時代を迎えた後も、西洋や中国の文化と日本文化が交じり合った独特の風情をもつ都市として、芸術に関わる人々を惹きつけてきた。結果、多くの芸術家が長崎を題材とした作品を生み出し、地元の作家も、それらに刺激を受けつつ長崎の外へと自らの表現を発信していった。長崎ゆかりの美術作品(長崎県美術館所蔵)から、作家の目に映った長崎の姿を、時空を旅しながら見つめることで、長崎の文化的風土を改めて捉え直すことのできる作品展。



【作品鑑賞1】
美術館からA「長崎港の図(中山文孝)」とB「長崎の丘(鈴木信太郎)」の2作品をWeb会議システムで配信し、大型モニター及びICT端末で鑑賞。その際、児童は、学芸員と対話しながら作品のよさや美しさを感じ取ったり考えたりする。

<めあて>「長崎を表した絵から感じたことを伝え合おう」

【作品鑑賞2】

・地図に作品写真を貼付した「作品マップ」を作成するため、AB以外の17作品を鑑賞しながら、「作品マップ」に取り入れる数点を各自で決める際にICT端末を使用。

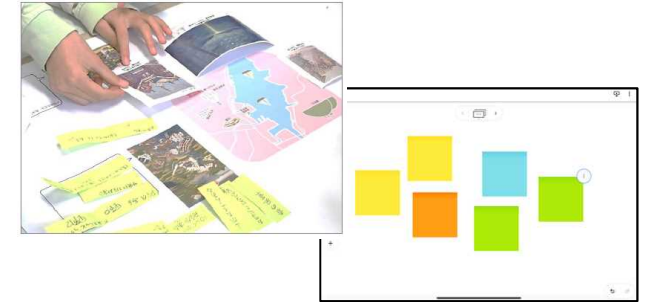
小学校・第5学年・図画工作科・ながさきARTTRIPーわたしだけの地図ー②

B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕(1)ア、イ

【事例におけるICT活用の場面①】



【事例におけるICT活用の場面②・③】



【場面①（美術館とリアルタイムでつながり、対話しながら作品を鑑賞する場面）】

- ・離島部にも多くの学校がある本県の現状から、美術館の作品を学芸員と対話しながら鑑賞できる機会を設けることは、美術作品への興味・関心を高め、作品のよさや美しさを感じ取ったり考えたりして見方や感じ方を深めることにつながる。
- ・児童が作品から受けた印象を造形的な視点をもって友人と話し合えるようにし、学芸員は対話しながら適切なタイミングで作品の情報を伝えていくようにしている。そのためには、教師と学芸員が、事前にねらいや学びを深める指導について共有しておくことが重要である。

【場面②（作品から自分なりに感じ取ったよさや美しさなどについて紹介している場面）】

- ・作品鑑賞したり友人に紹介したりする際に、自分が見たい、見せたいと思ったところを拡大してじっくり見合うことができる。そして作品の意図や特徴について話し合うなどして見方や感じ方を深める姿につなげることができる。

【場面③（「作品マップ」を作成する場面）】

- ・本授業では、マップ台紙に印刷した作品画像やコメントを貼付した。デジタルホワイトボードを効果的に活用し、ICT端末上で、マップ台紙画像に作品画像やコメントを貼付することもできる。このような活動を行うことで、画像サイズの調整や貼り替えも自在で、児童は自分の感じたことや考えたことを短時間で整理し、多くの友達と共有して意見を交換することが可能となる。

【活用したソフトや機能】 オンライン会議システム、デジタルホワイトボード